まちかど ネットワーク

かけ橋

まだ見ぬ君へ…

市内の演劇愛好家などが集まり、既成のスタイルにこだわらない演劇活動をしようと、劇団「自由空間劇場」を結成しましたので御紹介します。

自由空間劇場

「自由空間劇場」は、既存の劇団の枠にとらわれずに自由な発想で演劇をやろうと、市内及び周辺地域の演劇愛好家によって、ことし六月に発足しました。これと同時に、県が芸術振興のため、県内の舞台芸術団体に会場費の補助などを行っている「静岡ライブシアター」に参加することを決定。現在三十二人のスタッフが、十二月の公演に向けて準備を進めています。

代表の関野恭子さん(松岡)は、次のように話してくれました。

「何せゼロからのスタートです。資金面のやりくりや練習時間の短さなど苦労が絶えません。でも、この劇団は『もっとイキイキ伸び伸び今を活きよう』とスローガンに掲げているように、けいこをしたり、チラシをつくったり、福祉まつりに参加したりするなど、公演までの過程を大切に考えています。それに、みんなでこの公演をつくり上げていこうという気持ちが強いですね。だから、みんな充実していますよ。

公演は、演出及び台本担当の立石光博さん(久沢)による『笑いあり、涙あり、ちょっと考えてもらったりの人間讃歌の芝居』です。ぜひ多くの皆さんに見に来ていただきたいと思います。また、スタッフも募集しています。とにかく、私たちの公演を通じて、皆さんに演劇のすばらしさを知っていただけたらいいですね」

自由空間劇場の皆さん

《公演》

とき　①十二月二十日(土)十九時～　②十二月二十一日(日)十三時～

※全席自由。来場はお早目に

ところ　ロゼシアター中ホール

演目　「羊の大陸」

入場料　千円(高校生以下は八百円)

問い合わせ　プロジェクト事務局　☎六三一八九九一

市長への手紙から

歩道の整備を

今回は、今泉にお住まいの夏目さんから、歩道の整備についてお手紙をいただきましたので御紹介します。

夏目智子(さと)さん
祐(ゆう)子ちゃん

【「市長への手紙」から】

以前から気になっていたのですが、車道の整備はよく年度末に見かけるけれど、歩道については壊れていても見向きもされていないのでは…と思います。一度、車いすかベビーカーを押して歩道を通ってみたらどうでしょうか。いかに車が危険で、歩道が通りづらいということがわかるはずです。側溝のふたに車輪がはまりこんでしまうし、工事中の看板が歩道によく立てられていて、通行の妨げになっているし…。最近バリアフリー※ということも言われていることですし、もっと歩行者に優しいまちづくりを行ってほしいと思います。

【市長からの回答】

歩道の壊れている場所、通行の妨げになっている工事看板などがありましたら、市役所交通安全課に連絡していただければ至急対処します。

また、側溝のふたの穴は、側溝の維持管理上、ふたの取り外しと路面の排水を流入させるために必要となります。これをなくすには、市内の国道、県道、市道と全域に及ぶため、計画を立て対応したいと思います。

※お年寄りや障害者が生活しやすいように、段差などの障害を取り除くこと

★問い合わせ★
交通安全課　内線二四七八